

高浜市の未来を描く市民会議

ニュースレター

2010. 12. 9(木) VOL.12



事務局: 高浜市地域協働部地域政策グループ 高浜市青木町四丁目1番地2 TEL0566-52-1111(内線 352)

「みんなで目指すまちづくり指標」の 目標値について検討と意見交換をしました!!

11月16日(火) 高浜市役所にて12回目の市民会議を開催しました。参加者は、100人でした。この日のテーマは「みんなで目指すまちづくり指標」の目標値を検討しよう!

指標アンケートの結果もまとめ、いよいよ総合計画の“肝”である数値目標の議論が本格化。

まずは、行政側から、指標の現状値、目標値の算出の考え方などを説明。総合計画に具体的な数値目標を掲げ、達成状況を確認しながら進めていくという手法は初めてのため、職員も「設定した指標が、目標の達成度合いを測るのにふさわしいか」「数値は適正か」と、案をお示しするまでには、あれこれと悩んだ様子。

久しぶりの本格的な分科会ということもあり、和やかな雰囲気の中、大変活発な議論が交わされ、「どうやったら目標値を達成できるだろうか」といった方法案や、「目標を達成するためには、市民はどんなことに取り組んだらよいか? 行政との役割分担は?」等々、これまでの分科会で検討してきた内容を踏まえて、市民の皆さんの想いがきちんと反映されているかどうかを確認しながら、計画案の総仕上げに向かって、さらに一歩前進しました。



でも、行政がなにもしなければ将来負担率は減る。
必要なことは負担をしてもやるべき
という考え方もあるよね。



次世代のために健全な財政運営をすすめて
いくには将来負担率を減らしていくことが
大切だね。



学校を楽しいと
思ってくれている子どもの
割合が高いのはうれしいね!



「どちらかといえば楽しい」と感じている子どもを
「とても楽しい」へ移行させ
ていきたいな!



「満足している」という人の割合を
伸ばすと言うより「不満足」という人の
割合を減らす発想はどうか?



この指標は
分かりやすいね！



市外からも人が
たくさん来るといいよね。

出荷額だけでなく、付加価値の高い
必要とされるものを作っていくこと
も大事だね。

メタボリック症候群にならないよう
に、日常的に運動している人の割
合を増やしていきたいね。



そのためには
どうしたらいいのかなあ？

パッと効果の出ること
だけでなく長い目で
効果のあることもしたいね。



自治基本条例（案）がまとまりました！ ～自治基本条例分科会より報告



- 昨年の12月2日から市民会議が始まり一年が経ちました。自治基本条例分科会に入って、最初は言葉の意味からさっぱりわからないという状態でしたが、みなさんと意見交換をしたり、先生のお話を聞く中で、1年かかって、だんだんこういうものが必要なんだということがわかってきました。
- 「自治基本条例を広め隊」として、車座談議に各メンバーが分担をして、小学校区ごとに素案の説明に向きました。計5回で364人の参加がありましたが、そこで自分の住んでいる校区以外の方の意見を聞いたりすることで、とても新鮮な想いもしました。
- パブリックコメントや車座談議などの意見を踏まえて、分科会では、2回にわたって修正案を協議し、先般、総合計画審議会にも報告をし、12月議会で審議されると伺っています。
- 条例はつくって終わりではなく、身近なものとして、自分たちの暮らしにどうやって引き寄せて活かしていくかが鍵です。活きた条例となるように、1人でも多くの市民のみなさんに知っていただき、一歩でも活動に参画していただけるように、普及、PRに力を入れていきたいと思ひます。どうしたら市民のみなさんに理解していただけるか、みなさんからアイデアもいただきながら検討していきたいと思ひます。皆さんも、お友達やお知り合い、何かの会合の時に「今度、自治基本条例っていうものができたんだよ」ということだけでも結構です。ぜひともPRをよろしくお祈ひします。



神谷小百合サブリーダーより報告

【編集後記】今回の全体会の司会は4月に市役所に入ったばかりのAさん。緊張して手におまじないを書いて臨んだ本番でした。はじめは震えていた声が、少しずつ大きくなり、笑顔も出る様子に安心したり、感心したり。

配属後いきなり市民会議という“大海原”に飛び込んだ彼女は「車座談議や出前トークで地域の方の声を聞くことができ、勉強になった」「市民の皆さんと一緒に、熱い想いを込めて作った条例を業務にきちんと根付かせたい」「市民のみなさん、議会、行政が力を合わせて未来につなげたい」と感じたとのこと。その言葉は全職員を代表しているようです。1年前は市民の皆さんの前で緊張のあまりしかめ面、という職員もいましたが、市民会議を通じて、職員も和やかに変化しているようで、膝を合わせて対話し、笑顔の輪を重ねていくことがとても大事なんだなあとしみじみ感じます。(K.K)

